



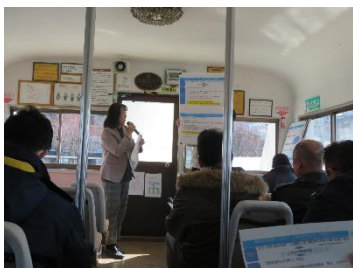
諏訪湖通信70号

令和6年4月22日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



「諏訪湖の浚渫勉強会」を開催しました

令和6年3月14日(木)に諏訪湖観光汽船遊覧船「すわん」にて勉強会を開催しました。(参加者 53 名)。この勉強会では令和5年度「諏訪湖の浚渫課題ワーキンググループ」において検討してきた利水・生態系保全を目的とした試行的な浚渫について一般県民の方々も交えて実施し、浚渫に対する知識や理解を深めました。今回、試行的な浚渫箇所が「初島周辺」ということで遊覧船に乗りながら、浚渫工事の施工業者である(株)シガテクノスの協力のもと、工事現場を間近で見学することができました。また、諏訪地域振興局伊東企画振興課長からは諏訪湖の浚渫の歴史や目的、その達成状況などこれまでの経緯について、また、諏訪建設事務所大郷主査からは現在の諏訪湖で実施されている治水工事や、水質浄化の取組など浚渫工事以外のことについても説明がありました。



遊覧船『すわん』内 勉強会の様

【工事の紹介】

・測量(R5.12)

GPS、測深器を備えたラジコンが浚渫予定箇所付近の湖面を縦横に走り、深さのデータを蓄積するというもので、陸上の調査では見られない、湖ならではの手法です。調査に携わる作業員の皆さんは、ゴムボートに乗り込みラジコンに沿いながら湖の沖に向けて出発します。午前中から始まった作業は丸一日がかりで、時間帯によっては風が強く波立つこともありましたが、無事に測量を終えることができました。



ラジコンとゴムボートに乗った作業員



水深を測るラジコン

・工事(現場作業は R6.4 月末まで)

浚渫エリアは初島周辺の約 2400m²、掘削量は 2400m³ の計画で作業を進めています。工事による水質への影響を配慮して汚濁防止膜を設置の上、台船にのったバックホウが掘削し、浚渫した底泥は土運搬船に積込、それを陸まで運搬し揚土します。その他、浚渫前後では生物調査を実施し浚渫工事がどのような影響を及ぼすかについても調査していきます。



浚渫工事の様子(遊覧船上より)



改良土← 改良剤+浚渫土

諏訪湖環境研究センターが開所しました

令和6年4月1日に岡谷市(男女共同参画センター建物内)に設置された諏訪湖環境研究センターの開所式が、4月9日(火)に行われました。

当日は、雨や風が強く生憎の空模様でしたが、多くの皆様がお集まりくださり、開所式がスタート。阿部長野県知事の挨拶や早出岡谷市長からのお祝いの言葉に続き、下諏訪町木遣保存会の小口副会長による木遣り唄に合わせて、知事と高村センター長が看板を掲げるセレモニーを実施し、地域の魂を込めていただきました！

セレモニーの後は、施設見学へ。展示や最先端の機器を集めた研究室などをご覧いただきました。

センター玄関ホールの展示については、皆様にご覧いただけるよう開放していますので、ぜひ遊びにいらしてください。その他の展示につきましては準備が整い次第お知らせしますので、しばらくお待ちください。



開所式の様子



玄関ホールの学習展示

諏訪湖開き安全祈願神事が開かれました

令和6年4月12日(金)に「第65回諏訪湖開き安全祈願神事」が手長神社で開かれました。

観光シーズンの幕開けを前に、今年一年の諏訪湖の安全を祈願する神事です。神事では湖周3市町の首長・観光協会の長などが参列し、玉串を奉納しました。宮司は、観光客の方や諏訪湖を利用する方が今シーズンも安全に楽しめるよう祝詞を奏上されました。

当日は良く晴れており、境内からは桜と諏訪湖を眺めることができました。手長神社は高台にあり、諏訪湖を見渡す絶好のロケーションです。是非足を運んでみてください。

諏訪湖サイクリングロードの全線開通で湖周を楽しむ方が増えています。観光客や地域の皆さんが諏訪湖で楽しい思い出を作ってほしいと思います。



神事の様子



手長神社から望む諏訪湖

☆お知らせ☆

令和6年5月28日(火)午後(場所: 諏訪湖環境研究センター)
第12回 諏訪湖創生ビジョン推進会議を開催します。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901



諏訪湖通信71号

令和6年5月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



「諏訪湖サイクリングロード全線開通」による 記念式典が開かれました

4月20日(土)『諏訪湖サイクリングロード※全線開通』を祝う記念式典が「ホテル紅や」で開かれました。式典には後藤茂之衆議院議員や湖周3市町の首長など当該事業に関わる多くの方々が参列し全線開通を祝いました。式典で阿部守一長野県知事から「諏訪湖は地域住民の心のよりどころであり、県の宝。全世界の人が諏訪湖に訪れて、ぜひこの環境を楽しんでいただきたい」と諏訪湖を核とした地域振興への思いが述べられました。

※諏訪湖サイクリングロードは、平成30年度の工事着手を皮切りに、諏訪湖の周囲約16kmを湖周3市町(岡谷市・諏訪市・下諏訪町)と県が協力して安全・安心な自転車の利用環境の整備を進めてきたもので、全線開通による「観光振興」、「健康増進」、「スポーツ振興」「環境保全」の4つの効果を期待しています。

- ・総事業費約21億8000万円
- ・施工区間

県: 約6.6km、岡谷市: 約2.3km、諏訪市: 約2.7km、下諏訪町: 約4.1km

記念式典のあと、諏訪湖間欠泉センター前まで移動し、テープカットが行われ、長野県PRキャラクターのアルクマも駆けつけて一緒に祝いすることができました。テープカット後は自転車に乗った子どもたちや大人が軽快にサイクリングロードを走り出す様子も見られ、益々今後のサイクリングロードの活用、諏訪湖周の発展に期待が高まりました。



(テープカットの様子)



(自転車で走り出す子どもたち)

また、諏訪湖サイクリングロードには、湖周の全12カ所にトイレやベンチ、サイクルスタンドなどの機能を備えた『スワレイクサイドオアシス』の整備を進めており、諏訪湖周利用者の休憩施設であったり、気軽に自転車で「スイッチ」を楽しめる環境づくりにも取り組んでいます。

この他、全線開通記念イベントも湖周市町で開催され、地域全体で盛り上がりしました。

サイクリングロード沿いの赤砂崎公園(下諏訪町)ではサイクリストマツザワ様協力によるスポーツバイク体験会、岡谷湖畔公園(岡谷市)ではe-バイクの試乗会の他、約30台のキッチンカーが岡谷湖畔公園に集う『おかやキッチンカーフェス』が開催されました。

各会場では諏訪湖サイクリングロード全線開通記念缶バッッチも配付されました。



(スワレイクサイドオアシス看板)



(記念缶バッッチ)

諏訪市湖畔公園にて「植樹祭」を開催しました (諏訪市)

令和6年4月20日(土)に第9回諏訪市植樹祭を開催しました。(参加者53名)

この植樹祭は緑の募金を活用させていただき、みどりの少年団(四賀、中洲、湖南小学校)を対象に行いました。植樹体験を通して、自分が住んでいる街の緑に触れ、親しみを持ち、諏訪市の豊かな森林を未来へ繋いでいくことを目的としています。

湖畔公園での開催は、こども達の緑を守る意識の醸成の他、観光の景観資源に係る魅力向上にも結び付き、相乗効果が見込めます。

また、1990年に国際ソロプチミスト諏訪様より285本のナナカマドを湖畔公園に植樹寄付していただきましたが、現在では十数本しか残っていないこともあり、今回の植樹祭ではナナカマド、かりん、アジサイを計80本植樹しました。

諏訪湖サイクリングロードの全線開通で湖周を楽しむ方が増えています。観光客や地域の皆さんが諏訪湖で楽しい思い出を作ってほしいと思います。是非足を運んでみてください。

📍サイクリングロード沿い島崎川付近



(みどりの少年団と一緒に記念撮影)



(植樹作業の様子)

春季クリーンウォーク・第1回上川アダプトプログラムを実施しました (美サイクル茅野)

茅野市の環境美化推進団体「美サイクル茅野」では、毎年春、夏、秋の年3回、市内全域を対象として「クリーンウォーク・上川アダプトプログラム」を実施しています。

茅野市内では、年間を通じ空き缶、空き瓶等のポイ捨て、ときには大型家電製品までもが不法投棄されています。こうした事態を踏まえ、「美サイクル茅野」では、区・自治会や環境自治会、企業や学校など様々な団体・主体に参加を呼び掛け、道路や河川のごみ拾いを中心とした環境美化活動に取り組んでいます。

今年4月に行われた「春季クリーンウォーク・第1回上川アダプトプログラム」では、市内全域で1,400人以上の参加があり、可燃物・不燃物合わせて約2,500kgものごみを収集し、美しい環境の保全やごみを捨てさせない環境づくりに大きな成果を上げることができました。



(活動の様子: 上川)



(回収されたごみの一部)

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901



諏訪湖通信72号



令和6年6月20日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議

第12回諏訪湖創生ビジョン推進会議を開催しました

令和6年5月28日(火)、第12回諏訪湖創生ビジョン推進会議を今年4月に開所した諏訪湖環境研究センターホール(岡谷市)で開催(73名参加)し、今年度の取組方針の情報共有と意見交換を行いました。冒頭、沖野外輝夫会長から「ビジョン達成の姿をみんなで夢見ながらどういうふうに協力していくか具体的に考えていく段階、また諏訪湖環境研究センターの調査研究にも期待」とのご挨拶があり、諏訪湖環境研究センター田邊皇子所長からは「センターの役割の柱は調査研究、情報発信、学び、関係機関との連携の4つ。調査研究では水質保全班・生態系保全班が設置され体制が整ったところ。水質改善と生物多様性回復によるバランスのとれた生態系修復を目指す施策を打っていきたい」とお話いただきました。

次に、学びの推進の取組の一つとして令和5年度に作成した諏訪湖創生ビジョンの普及啓発動画【諏訪湖に繁茂するヒシ】と【ごみのない諏訪湖を目指して】を放映しました。動画は令和3年度から令和5年度までの3年間で合計6本制作し、いつでもYouTubeで視聴できますので皆様の活動のあらゆる場所で活用いただけると幸いです。

YouTubeへのリンク先は県HPに掲載しています。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kikaku/vision/vision.html>



(会場の様子)



(R3～R5年度に制作した動画DVD)

続いて行われた意見交換では、「諏訪湖を核とした魅力的なまちづくり」をテーマとし、信州地域デザインセンターの竹内利宗コーディネーターから県内のまちづくり事例(しなの鉄道線沿線の広域的なまちづくり、諏訪湖周辺の広域的なまちづくり)についてご紹介いただき、まちづくりのヒントなどを構成員同士で共有した上で議論を展開しました。構成員からは「電動キックボードでスイッチ、船で諏訪湖横断などモビリティを活用して誰もが諏訪湖を楽しめるような環境づくりが必要」、「価値観、考え方が目まぐるしく変わる世の中、若者と一緒に議論することが大事」、「地域住民を巻き込んで“7月7日(日)午後7時7分、七夕の夜に諏訪湖の水辺で乾杯”をみんなでやろう」などのご発言をいただき有意義な時間となりました。

会議最後には、本年4月に諏訪湖創生ビジョン推進会議事務局に就任した竹花顕宏諏訪地域振興局長が「サイクリングロードの全線開通、来年夏ごろ開通予定の諏訪湖スマートICも踏まえると、今後多くの方が諏訪地域を訪れることになる。地域住民、観光客みんなにとって魅力あるまちとなるよう皆さんと力を合わせて取り組んで参りたい」と総括しました。



(UDC 竹内コーディネーター取組説明) (竹花諏訪地域振興局長による総括)

(ご案内) SUWA×文楽 2024「諏訪湖ステージ」無料公演の実現に向けて(一般社団法人大昔調査会)

2022年10月から諏訪社旧神宮寺由来の寺院の仏像などが一斉公開される「諏訪神仏プロジェクト」が始動しました。

当会では、その関連イベントとして伝統芸能「人形浄瑠璃・文楽」のうち、八重垣姫が登場する諏訪湖ゆかりの人気演目「本朝廿四孝(一部)」を毎年上演し、地域の文化を学ぶ機会を提供してきました。今年は、諏訪圏青年会議所と連携し、物語の舞台となる諏訪湖を背景に諏訪湖畔特設ステージ(屋外)を設け、無料公演を目指して取り組んでいます。さらに、人形浄瑠璃・文楽の魅力を、諏訪地域の自然・文化・歴史とともに伝える映像コンテンツを作成し、今後の諏訪湖浄化や諏訪圏観光の呼び水として使えるように関係機関にも公開していこうとも考えています。

本事業の成功に向けてクラウドファンディングによる資金募集に挑戦することになりましたので、多くの方にご賛同・ご協賛いただきますようお願い申し上げます。

クラウドファンディング募集期間：R6.7.1～R6.8.23(予定)

詳細は公式ホームページをご覧ください。

<https://sites.google.com/view/suwa-bunraku/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

○諏訪湖畔公演は10月26日を予定。翌27日の諏訪湖マラソンとも連携し、全国にむけて、諏訪地域の歴史・文化を発信!!



諏訪神仏プロジェクト ご賛同者の皆様へ

令和5年度の諏訪湖の水質(速報値)がまとまりました

下表の調査項目のうち、全りんが「諏訪湖創生ビジョン」に掲げる目標値及び環境基準を6年連続で達成しました。

一方で全窒素と参考値であるCODの年平均値は令和4年度より大きくなりました。年平均水質は年間の気象変動により多少変動しますが長期的にみると諏訪湖の環境改善は進んでいます。また、諏訪湖は湖面積に対する流域面積が40倍と大きく、面源からの汚濁負荷量が全体の9割を占めています。今後も、湖水域のみではなく、森・里・湖・川の流域全体を視野に入れ、水質保全対策や調査研究を進めていきます。

単位：mg/リットル(透明度：m)

項目		R5年度速報値	R4年度	目標値(R8年度)	環境基準(注4)
COD(注1)	75%値(注2,3)	4.9	4.9	4.7	3.0
	(参考) 年平均値	4.5	3.9	4.0	—
全窒素	年平均値(注3)	0.66	0.57	0.62	0.6
全りん	年平均値(注3)	0.047	0.038	現状水準(環境基準の達成)の維持	0.05
透明度	年平均値(注3)	1.0	1.3	1.3m以上	—

詳細はコチラ👉

<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-somu/pressreleases/documents/060523press3.pdf>

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901



諏訪湖通信73号



令和6年7月22日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖初！！「湖上フロレス」開催 (カフェ LAKEHOOD OKAYA)

レイクフッドオカヤです。去年の6月中旬に開業し、お陰様で1年が経ちました。6/15-16で1周年イベントを開催しましたのでご報告いたします。レイクフッドオカヤは湖上の施設として、「新たな湖上体験」をテーマとしております。1周年イベントを通じ、これまでやったことのない新たなイベントとして、信州プロレス様のご協力のもと湖上プロレスを開催しました。入場曲が鳴り響く中、レスラー達は観客のいる桟橋を通過してリングへと上がって行きます。揺れる台船上のリングでゴングが鳴り、楽しいマイクパフォーマンスを交えながらの試合開始となります。リングを取り囲む桟橋、台船上、カフェ内、展望デッキ、岸からの観戦。熱戦を繰り広げるリングの背景には、諏訪湖越しのハケ岳。コミカルだったり、華麗な技を披露し、会場のあちらこちらから笑いと歓声の絶えない湖上プロレスとなりました。今後も新たなイベントを通じて諏訪湖をこれまでよりもっと身近に、更に愛着を持っていただけるきっかけになればと思います。

👉(開催の様子)



子どもの夢実現に向けて～人工なぎさ(岡谷市浜)を再整備しました(6/9, 16, 23, 30, 7/7)

叫び～すわ湖で水遊びがしたい～

『みなさんは、諏訪湖で泳ぎたいと思いますか？「泳ぎたい」と思う人もいないかもしれません。今から話す事は、私のおじいちゃんが行動している話です。おじいちゃんが行動したのは一枚の絵からでした。その絵には「すわ湖で水あそびがしたい!」と10年前程に当時の長地小4年2組の子ども達が諏訪湖ハイツに貼ってくださり持ってきたものです。その絵におじいちゃんが気づき、子ども達の夢を叶えたいと「あってもいい夢工場」というグループを立ち上げました。

子ども達の夢を叶えるために大人達が協力しながら実現させていくグループです。私は諏訪湖で泳ぎたいと思いません。しかし、海がある県へ行くのも車で移動しないといけないので、つかれたりしてしまうので、できれば身近で遊べる場所があればいいなと考えました。私もイベントに参加したことがあり、おじいちゃんの話によると、昔は泳いだりスケートも出来ていたそうです。今の子ども達は泳げないのかかわいそうと思い、泳げたり水あそびが出来るようにさせたいと言っていました。後、私はぎもんをいただきました。それは、なぜ諏訪湖は汚くなってしまったのかです。

岡谷西部中学校 高木 夢叶

これは私の孫の作文です。
未来ある大切な子供達に、安全、安心で自由に水遊び出来る水辺を願い始まった活動です。小さな水辺が徐々に大きな水辺へと広がる事を目標に行っています。まだまだ広がり至っていません。
更に子どもの疑問に答えられない私に子どもは笑顔をみせません。
「なぜ諏訪湖は汚くなってしまったの？」に私たち大人は責任をもって答え、自然に戻す努力を示さなければなりません。

ボランティアプロジェクト
あってもいい夢工場

代表 花岡 潤

作業風景



理想の水辺



スワコエイトピークストライアスロン 2024 大会開催 ～諏訪湖とハケ岳の未来をつなごう～ (スワコエイトピークストライアスロン大会運営事務局)

第1回大会(2022年)から組織体制やコースの見直しを行い6月23日(日)に第2回大会を開催することができました。生憎の天候で子どもたちを中心とした地元参加型イベントは中止になってしまいましたが、スタートの号砲がなり1000名の選手が一斉に諏訪湖に入水、泳ぐ姿に大きな歓声が上がった時にはその思いも打ち消され、会場一帯は感動に包まれました。トライアスロンは、天候を踏まえた上でスピードや体調をコントロールし完走を目指す競技ですが、悪天候では心が折れそうになることも往々にしてあるそうです。今大会では選手から「地元住民の応援に勇気づけられ走り続けることができた」と感謝の声も多く聞くことができました。これもボランティア1100名の方々や沿道で応援してくださった方々など多くの方が選手をサポートしてくださった賜物です。諏訪地域の放っておけない気質がホスピタリティに溢れるおもてなしとなり選手に感動を巻き起こしたのだと思います。開催にあたりご支援・ご協力いただいた関係者の皆様には改めてお礼申し上げます。



(諏訪湖へ一斉に入水する選手)



(ゴール地点の様子)

「プレミアム諏訪湖サイクリングツアー」開催 (岡谷市観光協会)

令和6年7月7日(日)に実施したこのツアーは、4月に諏訪湖サイクリングロードが全線開通したことを記念した特別企画であり、諏訪湖で1日を満喫できるモデル的なコースを設定しました。「自転車×カヤック×うなぎ＝諏訪湖」をコンセプトに、諏訪湖でできるアクティビティだけではなく食文化にも着目し、地域の文化や風土の発信にも注力しました。また、参加者14名のうち7名は、県外者(東京、神奈川、愛知)であり、はじめて諏訪地域に来られる方もいました。参加者の年齢は50代から70代が中心であり、改めて諏訪湖サイクリングロードがいかに安全で世代を選ばないルートとであるかを実感しました。

来年には諏訪湖スマートインターチェンジの開通を控えており、さらなる観光客の増加が期待されます。

今後も「諏訪湖」という全国的に知名度が高い観光資源を活用し、諏訪地域の観光振興に取り組みでまいります。



(LAKEHOOD OKAYAにて記念撮影)

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901



諏訪湖通信74号



令和6年8月20日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



「水辺で乾杯 in 諏訪湖 2024」開催 (イベント事務局：(一社) 諏訪湖ミズベリング振興協会)

7月7日午後7時7分の「水辺で乾杯」が全国的に始まって、今年で10年目。諏訪湖でも、これまで有志による乾杯はありましたが、今年は「諏訪湖かわまちづくり上諏訪地区協議会」主催で実施されました。今年は諏訪湖畔の一部で河川空間のオープン化区域が指定された年でもあるため、湖畔利活用の方法例として、キッチンカーや露店の出店、音楽ライブ、電動キックボード試乗会に加え、自由に休憩できるテント・イスの設置も実験的に実施しました。当日の日中は酷暑で人も少ない状況でしたが、乾杯タイムには諏訪湖ラバー(ミズベリスト)老若男女70名余が集まり、カウントダウンの打ち上げ花火とともに大いに盛り上がりしました。参加者からは、“今後も四季折々に乾杯したい!”なんていう声も聞かれました。今後、諏訪湖畔のオープン化をさらに推進するためには区域内での寒暑・風対策、露店での火気使用制限の緩和、資機材の仮保管場所確保などが課題として見えてきました。



(打ちあがる花火と乾杯の様子)



(露店・電動バイク試乗会の様子)

手作業によるヒシ除去作業 4日間で延べ209名参加

諏訪湖創生ビジョン推進会議では、湖岸域の貧酸素化や枯死による底質環境の悪化、船の運航障害、景観の悪化等の問題を生じさせるヒシの大量繁茂の対策として、官民協働で手作業によるヒシの除去作業を行っています。

令和6年度は、7月12日、13日、19日、20日の4日間、諏訪市セーリング協会と諏訪湖漁業協同組合の皆様にご協力いただき、初島周辺で刈取作業を行いました。推進会議の構成員のほか、一般の方にも多数ご参加いただき、延べ209名で計8.5トンのヒシを刈り取りました。



(手作業によるヒシ除去の様子)



また、7月13日(土)には、ヒシの除去作業に先立ち、水産試験場諏訪支場にご協力いただき、水草学習会と稚エビの放流体験を行いました。上諏訪中学校や諏訪市のゆめプロ(すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」)メンバーのほか、多くの子どもたちにご参加いただきました。



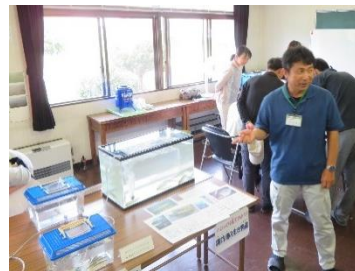
(水草学習会の様子)

「水産試験場 諏訪支場 夏休み特別開放」に参加しました

令和6年7月25日(木)、一般の方(小学生以上)向けに開催された諏訪支場での仕事を紹介するイベントに参加しました。会場では、諏訪湖に生息する魚・エビが種類ごとに水槽に分けられ、特徴や生息状況などについて研究員の解説を聞きながら観察することができました。



(水槽展示の様子)



(解説する川之辺支場長)

また、顕微鏡でプランクトンを観察することもでき、見学に来ていた小学生は初めての顕微鏡の操作に苦慮しながらも研究員の丁寧な指導の下、熱心に顕微鏡を覗き込み普段見ることのない世界を堪能している様子でした。この他、エビや魚の稚魚の放流イベントも実施され、諏訪湖と人と魚とのつながりを身近に感じることができました。



(顕微鏡操作を教わる小学生)



(放流する稚エビ・稚魚)

第16回諏訪湖祭湖上花火大会 開催

8月15日(木)、諏訪湖の夏の風物詩でもある花火大会が盛大に開催されました。初の南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」の呼びかけもあり、緊急時への準備をしたうえでの開催となりましたが、今年も豪華絢爛な大輪の花火が諏訪湖の夜空を彩りました。花火が打ちあがる一瞬一瞬が記憶に刻まれ、大勢の人たちにとって最高の夏の思い出になりました。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901



諏訪湖通信75号

令和6年9月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



阿部知事と共田県議らが諏訪湖を遊泳しました

8月23日(金)、下諏訪町赤砂崎の砥川河口付近で阿部知事が諏訪湖を遊泳しました。当日の諏訪湖は雲がなく最高気温30℃を越える真夏日でまさに遊泳日和でした。阿部知事は今年4月に全線開通した諏訪湖サイクリングロードを自転車に乗って会場に到着。

遊泳前に、既に何度も諏訪湖を遊泳している共田武史県会議員から「諏訪湖を実際に泳ぎ、まずは諏訪湖を楽しんでほしい。また肌で感じることで見えてくる課題を認識してほしい」とご挨拶があり、宮下克彦議員、丸茂岳人議員、竹花諏訪地域振興局長、胡桃諏建設事務所長の計6人が諏訪湖を遊泳しました。



(諏訪湖から手を振る様子、中央: 知事) (サイクリングの様子)

また、コースタルローイング競技日本代表の原織江選手と一緒に知事がローイング艇を楽しむ場面も見られました。遊泳後、知事からは「改めて諏訪湖の可能性を感じた。一方で泳げる場所として整備(湖底の状態や水辺環境等)の必要性も認識できた。水の中でも魚も人間も楽しめる“諏訪湖”を目指して、流域市町村と協力して推進していきたい」とお話がありました。



(コースタルローイング艇) (遊泳後、知事と自民党県議の皆様)

諏訪湖の日ガイドブックを発行しました

10月1日は「諏訪湖の日」。概ね9月～10月を中心に諏訪湖に関わる取組や企画を「諏訪湖の日プロジェクト」として取りまとめました。今年も様々な企業・団体の皆様が企画を考えてくださいました。是非、諏訪湖に訪れていただき、皆さんの思い思いの方法で、諏訪湖に親しんでください。

「諏訪湖の日」ガイドブック及び「諏訪湖の日プロジェクト」は、県ホームページ(<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kikaku/vision/suwakonohi.html>)に掲載しています。

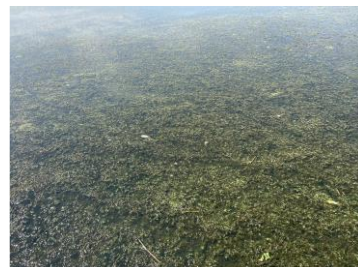


水草(ヒシとクロモ)の様子について

9月5日(木)、諏訪建設事務所の水草刈取船によるヒシ刈りも大詰めを迎えた頃、諏訪湖面に目を落とすとヒシの花を見つけました。さらによく見るとヒシが繁茂していないところは、クロモの繁茂が確認できました。信州大学名誉教授の沖野外輝夫先生によると「湖内ではヒシとクロモが生存競争しており、昨今ではヒシに負けじとクロモが湖内で生息域を拡大しつつある」とのことです。ヒシの大量繁茂も課題ですが、今後はクロモの繁茂状況も無視できなくなりそうです。”人と生き物の共存”の実現に向けて、物言わぬ植物に配慮しながら人間の暮らしについて考えていくことが必要と感じました。



(ヒシの花)



(繁茂したクロモ: 石彫公園付近)

2024 クリーンレイク諏訪ふれあいまつり開催

9月14日(土)、諏訪市豊田のクリーンレイク諏訪において、5年ぶり完全復活の開催となったふれあいまつりは多くの方の来場があり、かつての賑わいを取り戻しました。下水道の仕組みを学ぶ施設見学のほか、書道やダンスパフォーマンスなども行われ多くの来場者が楽しみました。また、諏訪湖創生ビジョンブースも出展させていただき、下水道の整備等によって泳ぐことができるほどに水質が改善した今の諏訪湖があること、また約40年前の昭和54年10月1日に諏訪湖流域下水道の一部利用を開始した日にちなんで「諏訪湖の日」を10月1日としたことをPRしました。



(処理場施設を熱心に見る見学者) (諏訪湖創生ビジョンのブース)

～諏訪湖環境研究センター開所記念イベント～ 諏訪湖の日フォーラム2024を開催します!

9月29日(日)は、「諏訪湖の日フォーラム」!!! 誰もが楽しめる企画が盛りだくさん。皆様のご来場お待ちしております。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901



諏訪湖通信76号

令和6年10月21日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



～諏訪湖環境研究センター開所記念イベント～ 「諏訪湖の日フォーラム2024」を開催しました

10月1日は「諏訪湖の日」です。

今年は「諏訪湖の日」に先立つ9月29日(日)、岡谷市にある長野県諏訪湖環境研究センターのホールにて、同センターの開所記念イベントを兼ねた「諏訪湖の日フォーラム2024」を開催しました。フォーラムの定員は300名でしたが、1週間前には申込みがいっぱいになるほどの人気ぶり。

午前中はセンターの特別公開が行われました。諏訪湖の環境に興味をお持ちの方が多数来場され、諏訪湖の環境を解説する展示や、普段は見ることのできない分析機器などを興味津々の様子で見学されていました。

午後1時、ホールの幕が上がると同時に、諏訪二葉高校吹奏楽部の力強い演奏が始まりました。

諏訪湖創生ビジョン推進会議・沖野会長の挨拶に続き、諏訪湖環境研究センターの高村典子センター長から、現在行っている研究の紹介がありました。センターでは諏訪湖の溶存酸素濃度の連続測定、富栄養化防止に向けての底質調査、諏訪湖を含め全国で3箇所ではしか確認されていない希少なトンボであるメガネサナエの生育調査など、さまざまな分野の専門的な研究を行っています。今後の成果が楽しみです。



諏訪二葉高校吹奏楽部の演奏



高村センター長による説明

次は本フォーラムのメインイベント、静岡大学教育学部准教授の加藤英明先生による基調講演です。加藤先生は、日本テレビ「ザ! 鉄腕DASH!!」やテレビ東京「緊急SOS! 池の水ぜんぶ抜く大作戦」に出演されている有名人です。

国内外の池の水抜きの話から始まり、在来種のカメのいる池に外来種を放すと、交雑して純粋な在来種が失われることがある。外来種である観賞魚やカメなどを放してしまうと、そこで繁殖したり大型化したりして、在来種が追いやられたり、人間に危害を及ぼすこともある。ペットは最後まで責任を持って飼ってくださいと強調して話されていました。

先生はご多忙の中、前日に諏訪入りして実際に諏訪湖を見たり、話を聞いたりしてから講演に臨まれました。釜口水門が、天竜川から入ってくる外来種を防ぐのに役立っているというお話は、意外な着眼点でした。

質疑応答も盛り上がり、「諏訪湖の水を全部抜けますか?」という、会場の皆がひそかに聞いたかった質問も。先生は「今はまだ抜く必要はないでしょう。水を抜かずに諏訪湖をよくしていく方法を考えてみましょう」と回答されていました。



加藤先生による講演



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901

岡谷工業高校環境化学科の諏訪湖に関する研究発表は、3つのグループから発表がありました。

近年問題になっているマイクロプラスチックの調査、ヒシの実から水質浄化効果のある炭を作る実験や、工業高校らしい水質自動計測装置や波動式湧昇ポンプの開発など、将来が楽しみな研究が進められています。

発表後は、加藤先生からアドバイスをいただきました。

最後は、おバカツイズのミニライブです。

おバカツイズは、諏訪湖の日が制定された2019年の10月から、月に一度を目安に諏訪湖畔で音楽イベントを続け、ライブ終了後は来場者と湖畔のクリーンアップをされている、かわいくて志のあるアイドルグループです。

歌って踊る華やかな舞台が繰り広げられ、ファンの方がサイリウム(光る棒)を振ってライブを盛り上げていました。



岡谷工業高校の発表



“おバカツイズ”のミニライブ

今回のフォーラムに向けてご準備いただき、午前中から搬入、リハーサルにご協力いただきました出演者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、何ヶ月も前から企画、準備を進めてきたスタッフ一同の思いが詰まったフォーラムでした。プログラムはすべて無事終了し、来場者アンケートの評価も上々でした。皆様、本当にありがとうございました。

「諏訪湖の日」に初島神社祭が行われました (初島神社奉賛会)

令和6年10月1日(火)、晴れ渡る秋空の一方、夏の暑さも感じながら20人ほどが諏訪湖の初島神社に上陸しました。手長神社の前島正宮司による神事では諏訪湖の安全や豊漁、さらなる賑わい創出などを祈願いただき、みんなで日頃の諏訪湖への感謝の思いをもって参拝しました。

その後、石彫公園では「諏訪湖の日」を祝う催しが行われました。最初に上諏訪芸妓の“美代遥”さんが八重垣姫の装いで登場し、諏訪湖を背景に華やかな踊りを披露。架空上の八重垣姫が現実世界に舞い降りたようでした。続いてシンガー&サクソ奏者の“内田歌穂”さんは生歌・生演奏を披露。観客は透きとおるような声と躍動的な音色に魅了されました。その他、諏訪市木遣り保存会の皆様も加わり一緒になって木遣りの音頭をとっていただき、盛大に盛り上げていただきました。



“美代遥”さんの舞踊



“内田歌穂”さんライブの様子



イベントの記念木札



諏訪湖通信77号

令和6年11月21日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



～諏訪湖の日プロジェクト投稿～太陽工業株式会社 太陽工業×SDGs＝諏訪湖の日【フロキング】開催

太陽工業株式会社の社員有志でつくられた「Earth Friends Team」は10月14日、チームのメンバーやメンバーの子供たち合わせて12名で、ジョギングやウォーキングとゴミ拾いを組み合わせたスポーツ「フロキング」を諏訪湖畔で行いました。ヨットハーバーをスタートし、1時間ほど歩いてゴミを回収。約20キロのゴミを集め、ペットボトルや空き缶、プラスチック容器、買い物籠や釣り竿など種類は様々でした。

チームリーダーは「今後は市や市内の企業と協力して行う形にしていきたい。活動の幅を広げることで、住みやすいまちづくりや環境改善につなげたい」と話していました。

また、このチームは、会社戦略からのSDGs活動を推進しており、月に1回のペースで諏訪湖畔や本社工場周辺などで取り組んでいます。2022年からこれまでに拾ったゴミの総量は193キロになり、併せて会社がかかっている「健康経営」にも資する活動で社員の健康づくりにもつながっています。

その他、同グループである株式会社ハイライトと協業で諏訪湖アダプトプログラムへの参画や諏訪カヤック協会様の協力を得てカヤックによるヒシ取りを行うなど今後も活動の幅を広げていきます。



太陽工業「Earth Friends Team」



フロキングの様子

世界に届け SUWAKOモニュメント (岡谷市)

岡谷市では、10月26日に「SUWAKOモニュメント」の除幕式を岡谷湖畔公園希望の広場で行いました。

諏訪湖周で最も諏訪湖・ハケ岳の景観が良い岡谷市側から諏訪湖を文字と一緒に発信することで諏訪地域の魅力のPRと更なる観光客の誘致を目的に設置しました。デザインは、岡谷市出身の画家 武井武雄の作品「かたちのうた」から着想を得て制作しました。おもちゃ箱の積み木をひっくり返したような遊び心のある配置となっており、1箇所からのみ「SUWAKO」と読み取ることができます。

本年全線開通した諏訪湖サイクリングロードと来年開通予定の諏訪湖スマートインターチェンジの開通により、諏訪地域へ更に観光客が訪れることが期待できます。ぜひ訪れた全ての方に諏訪地域の魅力を肌で感じていただき、記念写真をモニュメントの前で撮影しSNS等で発信していただければ幸いです。



岡谷湖畔公園に新設されたモニュメント

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901

～諏訪湖の日プロジェクト投稿～諏訪湖ハケ岳自転車活用推進協議会 【2024 健康サイクリング in 諏訪湖】開催

諏訪湖サイクリングロードの完成を機に、健康づくりをテーマにしたガイドサイクリングを実施しました。ふだん自転車に乗らない方も「健康づくり」を目的に自転車との関りを深めていただき、自転車ならではのスピード感で諏訪湖の魅力を再発見する機会になればと思い、6月～10月に全3回実施しました。

各回ではスタート地点を変えたり、同じ湖周一周でも右回り、左回りをする事で違った雰囲気を楽しめるよう工夫しました。「健康づくり」では、健康運動指導士を招き、10cmのブロックを使った「立ち上がりテスト」を通じて自身の脚力を知り、サイクリングで期待できる効果を学びました。サイクリングはお尻と腕と足で体重を支えることから運動中の膝や腰に係る負担も少なく長時間の運動が可能です。他にもバランス力や、歩くよりも少し速いスピードによる認知力、判断力など様々な効果が期待できます。

近い将来、超高齢化社会にむけて、一人でも多くの方が健康に歳を重ねることが大切です。自転車が移動や環境保全のほか、社会保障にも役立つことを期待し、観光や交通、健康づくりに資する取組を継続して参ります。



「健康づくり講座」の様子



健康サイクリングの様子

～諏訪湖の日プロジェクト投稿～(一社)大昔調査会 「SUWA×文楽2024」諏訪湖畔公園で開催

10月26日、諏訪圏青年会議所「諏訪圏フォーラム2024」のメインフォーラムとして(一社)大昔調査会が企画実施しました。人形浄瑠璃文楽『本朝廿四孝 奥庭狐火の段』を物語の舞台となる諏訪湖を背景とした屋外舞台上で上演し、350名を超えるお客様にご来場頂きました。

16時30分、義太夫の豊竹芳穂太夫さんが文楽解説で声色の演じ分けを実演。続いて御諏訪太鼓伝承者・山本麻琴さんが勇壮で力強い太鼓演奏を披露。やがて茜が差し始めた湖面を一艘の小舟が渡ってきます。舟上で八剱神社・宮坂清宮司が奏でる篠笛の音色によって雲は払われ、夕焼けが湖上の八重垣姫像を浮かび上がらせます。

17時に本舞台が開演、いよいよ八重垣姫の登場です。背景には「諏訪大明神」の掛け軸と物語の鍵となる「諏訪法性の兜」。八重垣姫は恋しい武田勝頼に窮地を知らせるため兜を手に諏訪大明神が遣わした狐の霊力で凍った諏訪湖を駆け抜けます。クライマックスでは赤衣装から白衣装に早変わりして観客から拍手喝采が。終幕で舞台が暗転し、主遣いの吉田勘彌さん始め人形遣いの皆さんが八重垣姫と狐たちと共にスポットで照らし出され、夢のような幻想的な舞台は終演となりました。



躍動する「八重垣姫」と「白狐」



諏訪湖通信78号



令和6年12月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



「釣り仕掛けによるカワウ捕獲」を試行しました (諏訪地域振興局 諏訪農業農村支援センター、林務課)

魚食性鳥類の「カワウ」は、諏訪湖及び周辺河川に飛来し魚類の捕食被害を及ぼしています。カワウの魚食量は 500g/日と言われており、諏訪湖のワカサギ資源量を減らす要因となっています。

そこで、諏訪地域野生鳥獣被害対策チーム(諏訪地域振興局林務課、諏訪農業農村支援センター)で「釣り仕掛けによるカワウ捕獲」を試行し、捕獲方法の有効性や捕獲効率を検証しました。「釣り仕掛けによるカワウ捕獲」とは、カワウのエサとなるウグイを仕掛け、それを食べにくるカワウを捕獲するという方法です。

仕掛け設置場所は、事前調査でカワウの飛来状況を確認したうえ、諏訪市豊田先の浮漁礁周辺の湖面とし、10月29日(火)から11月13日(水)の午前6時半から午前10時まで、気象条件の良い平日に計8日間実施しました。

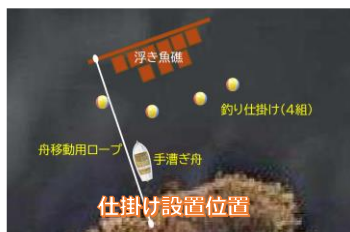
結果は、残念ながら捕獲には至りませんでした。理由は様々考えられますが、最大の要因は想定を上回るカワウの警戒心の強さです。仕掛け設置以降、浮漁礁付近にカワウが着水しなくなっていました。そこで、2点工夫をしました。

一点目は仕掛けの変更です。浮きを黄色のブイから透明のペットボトルに変更しました。

二点目としてカワウのデコイを作成しました。漁礁に設置したところ、近くを飛来するようになりましたが、ウグイを食べるまでには至りませんでした。

今回諏訪湖で捕獲を試行してみて、カワウ対策の難しさを改めて感じました。

諏訪湖は、観光客が多く環境的に対策が難しく、できる対策が限られますが、その中でいかに漁業被害を減らすかについて、今後も関係機関と連携して検討していきたいと思えます。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901

～諏訪湖の日プロジェクト～株式会社テンホウ・フーズ 諏訪湖創生事業に対するご寄附をいただきました

令和6年11月18日(月)、株式会社テンホウ・フーズ様から諏訪湖浄化を願って県にご寄附をいただきました。この取組みは諏訪湖の日である10月1日における諏訪湖周7店舗(城南店、中華そば城南店、福島店、湖浜店、南宮店、長地店、丸山橋店)の売上金の一部をご寄附いただくもので、今年で2年連続の取組となります。贈呈式では、大石壮太郎社長から「私達には自慢の諏訪湖がある。美しい諏訪湖であることがみんなの誇りになり、また多くの人が諏訪湖に目を向け、意識をもってこの諏訪湖を守っていくという行動につながってほしい。諏訪湖の日の取組は継続することが大事。もっと大きなプロジェクトに発展することを期待している」と取組のご紹介と併せて激励いただきました。竹花諏訪地域振興局長は「諏訪湖浄化は、地域の願いであり、これまで地域の企業・団体、住民の皆様と行政が危機感を持って一緒に取り組んできた。本年8月に阿部知事が諏訪湖を遊泳したことも踏まえ、泳ぐことができるほど水質改善した諏訪湖をさらに盛り上げるためにいただいた寄附金を大切に活用していきたい」と感謝の気持ちを伝えました。

左：(株) テンホウ・フーズ

大石代表取締役社長

右：竹花諏訪地域振興局長



諏訪湖まるまるゴミ調査が行われました！

令和6年11月9日(土)に第5回諏訪湖まるまるゴミ調査が開催されました。これは諏訪湖創生ビジョン推進会議の「ごみの無い諏訪湖」WGで企画されたもので、ごみを拾うだけでなく、諏訪湖のごみの種類や数量を調査し、それを公表することで流域内の方の関心を高めごみの発生抑制に繋げるものです。今回は、226名の方にご参加いただき、諏訪湖一周の5か所で調査を行いました。全体の回収量は可燃ごみ 299kg・不燃ごみ 35kgで、プラスチック製品由来のものが全体の9割以上を占め、その内の7割以上が小さなビニール片やプラスチック片でした。

調査の後には、ごみ拾いで感じたこと等について調査グループごとに話し合う「ふりかえり」が行われました。そこでは、「ビニールのごみが多かった。」「下流へ流れると海洋プラスチック問題になる。」「などの意見があり、「このごみはどこからやってきたと思いますか」という問いに対しては、「ポイ捨て。」「川から諏訪湖に流れ込んだ。」「ごみ置き場から風や雨で流されてきた。」「などの意見がありました。

また、「自分達が住んでいる町の諏訪湖にこんなにごみが落ちていることを知ることができた。」「一般の人にもこの活動を知ってもらいたい」などの意見もあり、調査を通じてごみへの関心が深まったことを感じました。



(ゴミ調査の様子)



諏訪湖通信79号

令和7年1月20日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



(一社) 霞ヶ浦市民協会との意見交換を行いました (諏訪湖創生ビジョン推進会議事務局)

令和6年12月4日(木)に諏訪湖での水質浄化に向けた活動視察のため茨城県からお越しになった視察団と、霞ヶ浦と諏訪湖での取組や課題について意見交換を行いました。

【霞ヶ浦について】

日本第2位の面積を有する淡水湖(西浦、北浦、常陸利根川)で、茨城県南東部に位置し、茨城県全体の約1/3の流域面積を占める湖。また、56の流入河川があり、最大水深も約7mと湖面積に比べて浅く、停滞水域であるなどの自然条件で水質が汚濁(富栄養化)しやすい湖で、古くから水質汚濁の兆候が見られた。特に、高度経済成長には水質汚濁が顕著となり、アオコの異常発生も見られた。現在も、さまざまな水質保全対策が講じられているが環境基準を大幅に上回っており、水質汚濁は継続している。



	霞ヶ浦	諏訪湖
湖面積	220 k m ²	13.3 k m ²
湖岸線	252.4km	15.9km
最大水深	約 7 m	約 7 m
湖周市町村	10	3
平均滞留日数	200	46

【聞き取り内容】(図は(独)水資源機構 H30 生き活き霞ヶ浦から転記)

○活動環境について

霞ヶ浦には茨城県霞ヶ浦環境科学センターが設置されているが、施設内に市民団体が自由に活動できるスペースも設けられている。また、センター組織には研究班の他、“環境活動推進課”が設置されており環境学習や市民団体への支援も行われている。一方、霞ヶ浦は関係市町村が多く、それに比例して市民団体も存在しており一体となって連携・活動することが難しい。昨今では、市民団体の高齢化が進み、歴史やこれまでの取組を後世につないでいく人材の育成・確保が課題となっている。

○学び(情報)の発信について

霞ヶ浦学講座(例年 4~10 講座程度)や湖上体験スクール等を市民団体協力の元、センターで実施している。センターの研究成果も毎年発表され、一般市民に分かりやすく伝わるよう工夫している。

○活動費について

茨城県では森林湖沼環境税が導入されており、水環境保全の推進のため市民等への環境教育や水環境保全への県民意識の醸成が図られている。市民団体はそういった支援を受けながらも独自に活動の幅を広げるためには企業の協力が必要と感じているがうまく巻き込めていない。

○人と湖のつながりについて

- ・約 8 割が農業用水(レンコン畑など)として利用されている。昔はワカサギ、シラウオ等の漁業やコイ養殖が盛んであったが現在は減少。帆引き網漁(帆引き船を使った漁)が有名。
- ・昭和 45 年頃まで霞ヶ浦では多くの湖水浴場があったが、水質悪化により昭和 49 年に全て閉鎖された。
- ・昔は砂浜があり、人の暮らしも湖と密接に関わっていた。
- ・湖内環境は毎年変化しており、その影響は湖外の生態系まで影響している。

視察団から
いただいた
冊子



(意見交換の様子)

諏訪湖の水草堆肥を全国へ (構成員活動 投稿：和限 様)

和限ではかねてより諏訪湖の水草(ヒシ)と下伊那地域の竹から作った炭を混ぜた資源循環型の堆肥づくりに取り組んでいます。この堆肥は平成28年に開催された第67回全国植樹祭「諏訪地区県民植樹」(諏訪地区森林づくりの集い)でも提供した他、東日本大震災の津波被災地で進められた緑の防波堤づくりでも提供しました。今回、植樹支援活動の中で繋がったNPO法人どんぐりモンゴリ(所在：愛知県。苗木作り、植林の緑化再生の活動を通して地域住民、子供たちの教育支援を目的とする団体)から依頼があり、11月12日岐阜県中津川市加子母植林地に出向き、草刈りや追肥入れなどの整備作業を実施してきました。ここは地域のガールスカウトや子どもたちによって山栗の木が植樹された場所であり、数十年後には加子母歌舞伎で有名な「かしも明治座」の屋根材として使用されるということです。

諏訪湖の水草や下伊那の竹などの長野県産の資源が全国各地で活躍していることを誇りに思うとともにこれからも未来の子どもたちのために循環型社会を目指して活動していきます。農地、山地(植林)、水草処理、運搬の作業などの際には協力させていただきますのでお声がけください。



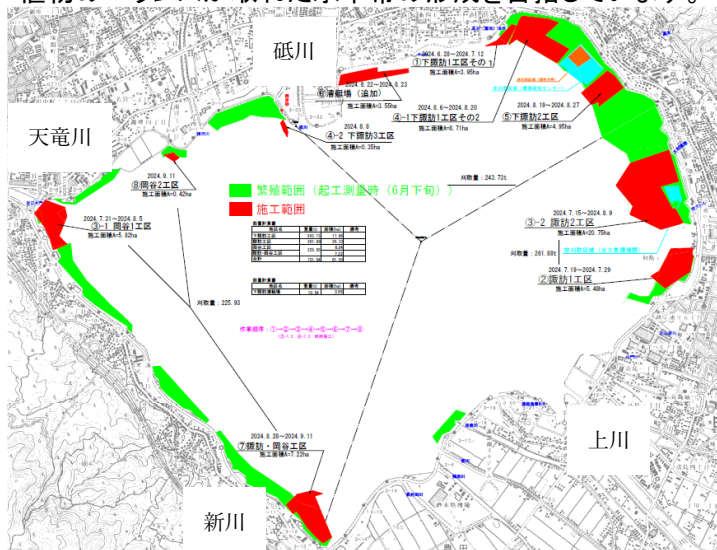
(宮城県 緑の防波堤植樹の様子)



(岐阜県 加子母植林地)

令和6年度 諏訪湖の水草除去の状況

水環境保全の取り組みの一つとして諏訪建設事務所では水草刈取船によるヒシ除去を行っています。ビジョンでは試行的に刈取量を増やし、生態系への影響を見極め、水生植物のバランスが取れた水草帯の形成を目指しています。



ヒシ繁茂エリア(R6.6 下旬起工測量時点)＝緑＋赤
R6 除去エリア＝赤(湿潤重量 約 740t 刈取湖面積の約 4.8%相当)

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901



諏訪湖通信80号



令和7年2月20日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖における持続可能な漁業振興に係るワーキンググループが開催されました

令和7年1月9日(木)に諏訪合同庁舎にて第2回ワーキンググループが開催され諏訪湖の生態系に関する関係機関の取組報告や研究発表が行われました。概要を報告します。

○県機関からの報告

・外来魚駆除(諏訪農業農村支援センター)

電気ショッカー、刺し網による採捕・駆除 約1.4ト(R6.12時点、R5実績:約2.7ト)

・魚食性鳥類の追い払い等(林務課、諏訪農業農村支援センター)
追い払い花火(100日間)の他、釣り仕掛けによるカワウ捕獲の試行(諏訪湖通信78号参照)

・ワカサギ採卵の安定化(水産試験場諏訪支場)

ワカサギの産卵は2月上旬から3月下旬が盛期といわれているが諏訪湖では5月の産卵も見られる。従来は河川へ産卵遡上したワカサギを採捕・採卵していたが、昨今は産卵遡上が多く見られず採卵事業が不調となっている。湖内で親魚を採捕し、水槽内での自然産卵、採卵する手法を実施。この他、ワカサギやテナガエビの資源量の推定方法にかかる調査研究についても紹介があった。

・人工浮き漁礁の設置後について(諏訪農業農村支援センター)

R5県民参加型予算を活用した事業(諏訪湖通信第68号参照)でR6.1に設置完了した人工浮き漁礁の早期の効果発現の取組として漁礁に生物がより棲みつきやすいように人工産卵藻を設置(全9基に設置)。

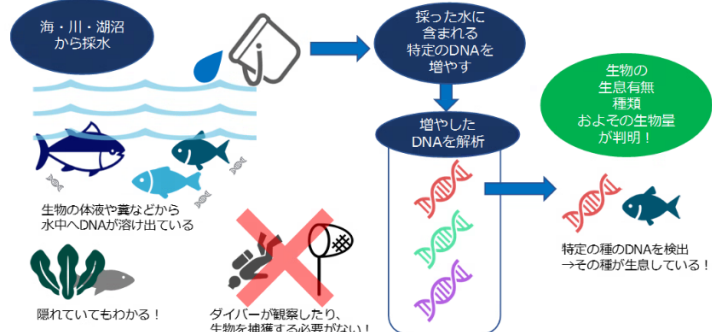


(R6.1 設置時の浮き漁礁)

(R6.9 産卵藻設置時の浮き漁礁)

・諏訪湖の生物調査について(諏訪湖環境研究センター)

環境DNA分析技術を用いた魚類分布調査、水草帯の魚卵調査の他、高密度ヒシ帯の魚類・エビ類調査に着手。



(環境DNA調査イメージ図、図は(株)建設技術研究所HPから引用)

○湖底泥(=有機物の集積所)の調査(信州大学平林教授)

過去100年前まで調査データを遡ることができ、現在のデータと比較することができるのは諏訪湖の特徴。魚の餌であるユスリカの幼虫の泥の表面の生息密度について約40年前の調査データを参考に試算すると現在は1/100程度。餌が減っていることから魚の資源量も同程度に減少していると考えられる。諏訪湖の生産性も含めた状況を的確に把握するためには、水生植物の変遷やユスリカなどの生物の生息状況といった様々な研究データを集約していくことが大事。

いばらき湖沼市民会議 諏訪湖と市民活動 環境保全と緩やかな連携を考える

霞ヶ浦をフィールドとするいばらき湖沼市民会議の要請に基づき諏訪湖クラブ沖野外輝夫会長が茨城県霞ヶ浦環境科学センターで開催されたシンポジウムの講師として参加し、現地の市民団体等との意見交換を行ってきました。

日時 令和7年2月2日(日)午後1時~午後4時30分

場所 茨城県霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

参加 現地の市民団体等約40名

諏訪湖クラブ 沖野外輝夫、井上祥一郎、八幡義雄
(リモート参加) 諏訪地域振興局企画振興課 大林輝圭



沖野会長講演の様子



会場内のパネル展示



シンポジウムのビラ

生憎の天気となりましたが霞ヶ浦の取り組みなどの説明を受けました。

カモ類の生息数調査を実施しました

1月14日(火)、諏訪湖及び周囲の流入河川、天竜川においてカモ類の生息数調査を実施しました。

この調査はカモ類の種類別個体数や季節的増減を把握することを目的に、平成5年から年3回、諏訪地域振興局林務課主体で実施しています。

調査は林務課職員、県鳥獣保護管理員、諏訪市職員の計11名が4班に分かれ、双眼鏡等を用いて種類別に数をカウントし、2,048羽(昨年同期1,402羽)のカモ類を確認しました。1月調査としては平年並みの個体数と考えられます。また魚食性鳥類ではカワアイサ287羽(昨年同期158羽)、カワウ138羽(昨年同期123羽)、カンムリカイツブリ76羽(昨年同期282羽)を確認しました。

今後も調査を継続し、個体数の推移を確認してまいります。



調査の様子

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901



諏訪湖通信81号



令和7年3月19日号 発行：諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖の水辺アクティビティ推進に向けて勉強会を開催しました

諏訪湖創生ビジョンでは目指す姿の一つとして『泳ぎたくない諏訪湖』をテーマに掲げています。諏訪湖の水質が水浴可能などまで改善してきていることを踏まえ、諏訪湖の賑わい創出に資する取組を親水利用の観点から検討をはじめました。目標達成に向け、こういった取組が最適なのか、まずは現状把握の共有を目的に令和7年2月6日(木)に湖周市町担当者、水辺アクティビティ事業者、観光事業関係者を交えて勉強会を開催しました。

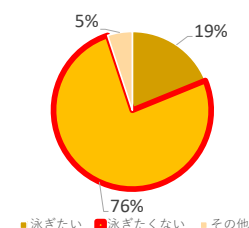
○勉強会での共通認識は以下のとおりです。

・諏訪湖は水質汚濁が進んだ時期が半世紀近くあったことから『諏訪湖の水＝汚い』というイメージが根付いてしまっている。水質改善がどのくらい進んだか正しい知識を周知理解してもらうことが大事

・遊びやスポーツを通して実際に諏訪湖の水に親しむ機会を増やし、湖と人との距離(関係性)を近づける

・現状、諏訪湖の景観を楽しむことを目的としている観光客が多数。景観に加えて諏訪湖でのアクティビティを日常的に楽しめる環境づくりを官民連携で進めることが大事(結果として観光客の滞在時間も増加)

1) 諏訪湖で泳ぎたいですか？(回答者138人)



○その他意見

- ・一部だけでもいいから湖水浴場として整備してくれたらトライしてもいいかも
- ・水辺でのネイチャーゲームを実施したい
- ・泳ぐにはもう少し水質の改善が必要
- ・人が入ると汚染されたり岸が荒らされる
- ・口に入った水が飲めるか不安

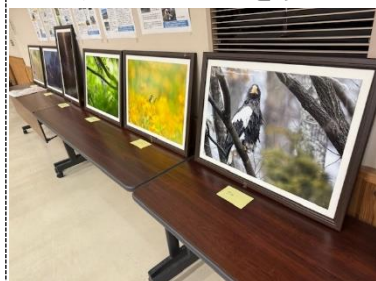
→泳ぎたくないが7割強。水質改善が課題。どうすれば7割強の人が“泳ぎたい”となるか

(R6.9.29 諏訪湖の日フォーラム参加者アンケート抜粋)

諏訪地域の野鳥にかかる講演を拝聴しました

(主催：諏訪地域森林づくり・林業振興会、諏訪地域振興局林務課)

令和7年2月17日(月)諏訪合同庁舎講堂にて「魅力あふれる諏訪の野鳥たちと撮影秘話」と題して伊藤 隆(いとう りゅう)先生のご講演を拝聴させていただきました。諏訪地域は諏訪湖、霧ヶ峰高原、八ヶ岳、田園といった環境が狭いエリアに形成されており、野鳥にとって最高の場所であるということでした。世界で確認されている野鳥の種類は約9000種といわれ、日本に飛来・生息する野鳥は約500種でそのうち諏訪地域では約200種が確認されているとのことでした。日本の約4割もの野鳥がこの諏訪地域に飛来・生息しているという事実には驚き、改めて諏訪地域の自然環境の豊かさを認識しました。一方、昨今の地球温暖化の影響などで春になると北方に戻る冬鳥が戻らず留鳥化している実態も触れられ、環境の変化が野鳥の生態にも影響し、それが諏訪湖などの生態系にまで及んでいることを窺い知ることができました。



(展示写真 撮影：伊藤 隆氏) (野鳥撮影時のカメラ機材など)

諏訪湖研究連絡会(仮称)が開催されました(主催：諏訪湖環境研究センター)

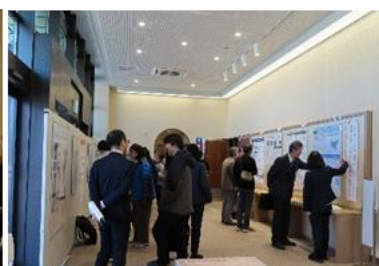
令和7年2月27日(木)、諏訪湖環境研究センター及び諏訪湖ハイツ等を会場に、県内外の研究機関の研究者が一堂に会して諏訪湖を中心とする研究内容を発表・共有する場が設けられました。これは、同センターが今後、県内の水環境に関する研究者との連携強化やコーディネイト役を担っていくためのきっかけづくりとして初めて企画し開催されたものです。

連絡会は論文発表前の研究内容も含んでいたため非公開(冒頭のみ公開)で行われましたが、発表分野は諏訪湖について様々な切り口から焦点が当てられたもの(生態系、気候変動、御神渡し、地形、地質、モニタリング手法等)で、どれも新鮮かつ興味深いものばかりでした。また、各機関の研究者による口頭発表に加え、県研究機関の研究員や信州大学などの院学生等によるポスター発表も行われ、全体で約5時間のスケジュールでしたがあっという間でした。

これをきっかけに今後、行政機関と研究機関が連携しながら相互の研究や施策を効果的に進めていける仕組みが形づくられていくことを期待しています。



(口頭発表会場の様子)



(ポスター発表の様子)

第4回 諏訪湖の水草対策ワーキンググループが開催されました(諏訪地域振興局環境課)

今年度3回目となるワーキンググループが令和7年3月4日(火)、諏訪合同庁舎にて開催されました。ヒシの刈取りについては生態系のバランスやヒシの繁茂場所の利活用の状況を考慮して重点的にヒシを除去すべきエリアを設定していくとしていますが(R5.3改定 諏訪湖創生ビジョン P65)、今回のWGでは、令和7年度に水草刈取船によりヒシを優先的に刈り取るエリアについて議論しました。具体的には中門川から初島周辺にかけての観光スポット・湖周道路から湖面がよく見える場所の景観保全や下諏訪町の漕艇場でのボート競技など湖面利用への支障解消について意見が出されました。また、効果的なヒシ刈り手法の調査結果も共有され、ヒシの刈取り時期を早めることでその後の植生に変化が見られることや総刈取量を抑制することができる可能性があるなど、いであ(株)畑氏(県水大気環境課 発注事業受託者)から説明がありました。改めて湖内環境の変化に留意しつつ、刈取手法を検討することが必要と感じました。

(ワーキンググループの様子)→



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。事務局：諏訪地域振興局企画振興課 TEL：0266-57-2901